

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671300469	
法人名	有限会社 なかがわ苑	
事業所名	グループホーム なかがわ苑	
所在地	徳島県阿南市那賀川町大京原393-1	
自己評価作成日	令和2年11月	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階
訪問調査日	令和2年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

朝の挨拶や笑顔を大切に、お一人おひとりの存在を尊重している言葉掛けを常に意識している。利用者様の持つおられる特性や個性を理解し、その方が周りの利用者様と調和が出来、ゆったりと自分のペースで生活ができるように職員間で気付いたことなどを話し合い、情報を共有し把握することで協働の力を持って生活環境を整え対応するように努めている。美味しくご飯が食べられ、安全でお元気に過ごしていただく為に小さな変化も見逃す事のないように気をつけ、また毎日のバイタルチェックや定期的な検温を行う事で体調の変化にいち早く気づき、主治医との連携により素早い対応ができるようにしている。今年度はコロナ感染症対策もあり、御家族様には面会制限等にご協力をいただき、お電話や毎月の生活報告書で利用者様の現在の様子についてお伝えし御家族様にも安心していただけるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然豊かな田園地帯に位置している。近隣には、同一法人の運営するデイサービスや有料老人ホームが併設している。感染症(コロナ等)の流行下においても、気候の良い日にコスモスの花を見に出かけたり、事業所内で秋祭り等のレクリエーションを工夫したりして、利用者が生き生きと過ごすことができるよう工夫している。協力医療機関とは24時間体制で連携を図り、適切な医療が受けることができるよう支援している。職員は利用者一人ひとりをよく観察し、表情や仕草等から、要望や体調の変化等で気づいたことを“気付きノート”を活用し、共有することによって、迅速に対応している。事業所内で利用者とともに調理を行い、居間から調理風景を眺め、調理の音や香りを感じることができる家庭的な雰囲気となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出勤した職員は掲示している理念を必ず読み上げ確認を行い、利用者様一人ひとりの自立支援に向けて情報共有を行い毎日のケアの実践に取り組んでいる。	事業所では、利用者が今までの生活を継続できることを目標に、“気付き、話し合い、協働”という理念を掲げている。職員で考え、理念にもとづいた具体的な方針も作成している。理念や方針にそって、利用者への明るいあいさつから、日ごろの支援につながるよう、支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等で近所や地域の方々とお会いした時には笑顔で挨拶をし、馴染みの関係づくりに努めている。お野菜等を頂いた際には御礼をしお付き合いを深めている。	事業所では、地域の敬老会で利用者の貼り絵を展示したり、ゴミ拾いに参加したりしている。事業所の畑仕事に近隣の方の手伝いを得るなど、日ごろから交流している。感染症(コロナ等)の流行下においては、事業所周辺の散歩の際に、近隣住民とあいさつを交わしたり、野菜の差し入れを受けたりして、交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員の方や利用者様の御家族様に現状報告を行う事で、認知症についての理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ対策の為今年2月より苑内のみでの開催とし、課題についての意見交換を行っている。話し合った内容については報告書を会議メンバーに郵送し、サービス向上のために職員間で情報共有できるようにしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には、利用者や家族、地域住民、市担当者等の出席を得ている。感染症の流行下においては、利用者と職員で話しあった結果を各委員に送付し、意見を聞いている。出され意見は、職員間で共有し、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の時だけでなく、困った事案や分からないことがあった時には市の担当者や地域のお世話センターに相談するなどアドバイスをいただき協力関係を築ける様に取り組んでいる。	管理者は、感染症の流行に伴い、電話を活用し、市担当者へ連絡している。事業所の実情を伝えたり、直面している課題について助言をもらったりして、協働関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について定期的な勉強会を行い、職員間で意識を高める取り組みを行っている。利用者様の自由な暮らしが尊重される様、玄関などの施錠を行わず開放的な空間を確保している。	事業所では、定期的に身体拘束廃止委員会と身体拘束に関する勉強会を開催している。ベッドから転倒する危険性がある場合は、拘束せずに安全性を保てる方法を職員間で検討している。スピーチロックに対しても、職員間で注意しつつ、行動を制止しない声かけに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社会的に虐待防止の意識が高くなり、報道やインターネット等により情報が得られやすくなり、毎月のミーティング等で話し合う機会を持ち、虐待防止の意識を再確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センター等と連携し利用できる制度や事業について、家族や関係者の意向に速やかに対応出来るように準備し、利用者様一人ひとりの能力に応じた活用が出来るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に家族様や関係者の方に重要事項説明書や利用契約書の内容、個人情報保護・身体拘束・看取り等について読み上げながら説明を十分に行い、誤解が生じない様に気をつけ理解、納得いただいた上で署名・押印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議などの機会を利用し、意見や要望について話せる雰囲気作りに努め、話し合った事柄については会議や書面で職員・外部者へ伝え運営に反映させている。	職員は、利用者や家族等が意見を伝えやすい雰囲気づくりに努めている。感染症の流行下においては、感染症対策を行い、玄関先で面会できるよう工夫し、意見をきく機会を設けている。出された意見は、職員間で共有し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り等で職員は意見交換や連絡を行い、定期的なミーティングの中で管理者へ現場の運営上の要望等を職員から提案し、熟考する場を持つようにしている。	管理者は、日ごろからミーティング等の機会に、職員から意見や提案をきいている。“気づきノート”を活用し、職員が気づきや提案を伝えやすい環境をつくっている。職員の提案を外出支援に繋げるなどして、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の研修や資格習得に支援を行い職員の能力向上への協力を行っている。職員が働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の研修や資格習得に支援を行い職員の能力向上への協力を行っている。また苑内での勉強会を行いスキルアップに繋げるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者と交流を持ち、情報交換や相談しやすい環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報収集を行い本人にあった入居への方法を考えている。御家族様とも連絡を取り安心して過ごしていただけるよう信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の思いや希望をよくお聞きし、どのようにして要望に寄り添っていただけるかを話し合い、相談が出来る事をお伝えし、良好な関係づくりを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族様の状況を把握し、必要とする支援を見極めている。他のサービス事業所とも連携を図り情報をいただくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をさせていただくという姿勢を大切に利用者様と一緒に家族のような関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りに近況やエピソードなどを伝え、今後のケアの方向性を相談したりして共に支えていく関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方にいる家族様には電話をしたり、馴染みの方とは気軽に面会をしたりし関係が途切れないよう支援している。今年はコロナの事もあり面会が出来ない期間は電話などで近況報告を行っている。	事業所では、3か月に1回、利用者の希望に応じて、地域の美容師の来訪を受け入れている。感染症の流行下においては、馴染みの方との電話のやりとりを支援したり、携帯電話の使用を支援したりして、馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方や利用者様の相性などを考慮し、テーブル席を工夫したり利用者同士の関係が円滑な物となるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も家族様からの相談や問い合わせを伺っている。退居後も可能な限り生活状況の把握を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の思いや意向を把握し、プランに反映するようにしている。困難な場合は家族様と相談し、本人にとって必要な支援を検討している。	職員は、利用者との日ごろのかかわりのなかで、利用者の思いや意向の把握に努めている。会話のなかの何気ない一言や表情の変化も大切にしている。意思の表出が困難な利用者については、家族等からの意見をもとに、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族様や各サービス機関から情報を収集しアセスメントに記載している。また新しく得た情報は随時追加を行い共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中の暮らし方や夜間の状況を把握し申し送りを行う事で情報共有をしている。毎日のバイタル測定で体調の把握にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族様からの意向・要望を伺い、課題や見当が必要な時にはカンファレンスを行い、現状に即した支援が行えるようにしている。	事業所では、担当職員が中心となり、利用者や家族等の希望をもとに介護計画を作成している。感染症の流行に伴い、事前に関係者の意見を聞きとり、担当者会議で話しあっている。定期的な見直しのほか、利用者の心身状況の変化に応じた見直しを行い、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を作成し、日々の様子や変化などを記入している。申し送りなどで情報を共有し、その後のプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や付き添い、お花見など希望に即した外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容師に来苑頂き整容を支援している。コロナの関係で現在は行えていませんが、近くのコスモス畑やお花見に出かけたり、地域の河川掃除に参加したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の他、本人・御家族の方の希望される医療機関やかかりつけ医を受診出来る様、必要に応じて対応を行っている。	事業所では、利用者や家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門医の受診には、家族等の協力を得ている。協力医による定期的な往診のほか、24時間対応可能な体制を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の看護士による定期的な訪問時に、体調の変化や気になる事についての相談を行い、助言をいただいたり主治医に報告をしていただき適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された際は職員や管理者が面会を行い、本人や家族・医療機関の方と話す機会を持ちスムーズに治療やケアが出来るように努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、終末期ケアについて入居時解約の書面にて苑の対応力について説明を行い、十分な理解・了承を得ている。常に利用者様の変化について家族様へ報告を行い支援出来る様医療関係との連携をしている。	入居時の段階で、重度化や終末期における事業所の方針について、利用者や家族等に説明している。利用者の心身状況の変化に応じて、家族等と話しあっている。協力医療機関と連携を図り、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の状態を常に把握し、急変や事故の予測・対応法について申し送り時に話し合っている。急変の訓練・分からないことは主治医・看護師に教えていただいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時のマニュアルをもとに避難訓練を定期的に行い、全職員が避難経路や防災対策についての理解を深めている。地元の消防団にも来苑頂き協力体制を深めている。	年2回、避難訓練を実施している。訓練には、地元の消防団の参加を得て、避難時における注意点や危険箇所について助言をもらっている。同一法人の運営する併設の他サービス事業所への避難訓練も行っている。備蓄品を整備し、災害時に備えているが、地域住民の協力を得るまでにはいたっていない。	職員だけの誘導の限界を踏まえ、引き続き、地域住民との協力体制構築に向けた声かけを続けられたい。避難訓練へ地域住民の参加を得るなど、協力体制の構築に期待したい。また、併設の他サービス事業所の職員との連携体制の強化にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬し丁寧な言葉かけを行い、利用者様一人ひとりのプライバシーを守るように心掛けている。	職員は、利用者一人ひとりを尊重し、誇りを傷つけることのない言葉かけや支援に努めている。対応が困難な場合には、家族の協力を得て、利用者が納得できるような支援に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様一人ひとりに合ったお声掛けを行い、本人の思いや希望を伺い能力に応じた判断が行えるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の個性を尊重し、それぞれのペースを大切にしながら、その方らしく過ごせる様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の愛用されていた物を可能な限り身に着けていただき、その方らしく身だしなみが継続出来る様努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使い季節を感じていただいたり、お誕生日にはその方のお好きなメニューを取り入れ、全員で楽しく食事が取れるように心掛けている。	事業所では、利用者と職員で調理を行っている。利用者には、食器洗いや配膳等、できることで役割を担ってもらっている。季節に応じて行事食を提供したり、ケーキをテイクアウトしたりして、食事を楽しむことができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の健康状態、その日の体調に応じて食事の内容を考え提供している。定期的な水分補給を行えるように声掛けを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性について職員が理解し、毎食後に声かけを行い、自分で出来る方は洗面所で見守り、出来ない方へは本人の状態に合わせた介助を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、自尊心に配慮しながらトイレ誘導や見守りを行い、トイレで排泄出来るように努めている。	職員は、利用者一人ひとりの任草や言動から、排泄のサインを見逃さないようにしている。さりげない声かけで誘導し、できる限りトイレでの排泄を支援している。利用者の心身状況に応じて、二人介助やポータブルトイレ等の使用を行い、安全に気持ちよく排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で利用者様の排便状態を把握し、水分補給を促すなどその方に合った予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴希望の意思を確認し、日程の変更にも臨機応変に対応している。湯船にゆったりとつかっていただき、満足いただける様に利用者様に合わせた支援を行っている。	事業所では、週2～3回の入浴ができるよう支援している。利用者の心身状況に応じて、シャワー浴や清拭を取り入れている。シャワーチェアや手すりを増設し、利用者が安心して、気持ちよく入浴できる環境づくりに取り組んでいる。入浴を拒む利用者には、時間帯や日を変えるなどして、無理強いくことなく、入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に配慮しながら、日中は活動的に生活をしていただき、またその方の体調や要望に応じた対応を行うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作り、職員が常に確認できるようにしている。処方や容量が変わったときには申し送りや連絡ノートにて情報共有をしている。薬はダブルチェックを行い見間違いを防ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの持っている能力や意欲に応じた役割を考慮し、自分で洗濯を行いベランダに干す方や、職員と一緒に庭木の剪定をしたり、乾いた洗濯物を畳んでくれる方など出来る事を楽しんでいただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩好きの利用者様にはお天気の日にお声掛けを行い、季節を感じて頂ける様に近所を散歩したりしている。コロナの影響もあり今年度は家族様との外出もあまり出来ない。	事業所では、気候の良い日に、近隣の散歩に出かけている。感染症の流行下においても、コスモスの花見に出かけたり、病院受診の帰りに家に帰ったりして、外出を支援している。事業所内での秋祭り等のレクリエーションを充実し、利用者が楽しく過ごすことができるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族様の要望や希望に合わせて、利用者様に合わせたお小遣いを持って頂き、お買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からの電話の取次ぎや、利用者様が家族様へ連絡したい時など気軽に行えるような雰囲気作りに努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同トイレは常に清潔に保ち利用者様を使用しやすいように気を付けている。ホールの壁面や空間には季節を感じられる飾りつけを行い、利用者様が居心地よく過ごせる様な環境作りに努めている。	共用空間は、大きな窓から日光が差し込み、明るい。壁面には、利用者と職員が作成した、季節の作品やカレンダーを飾り、季節を感じるができるよう工夫している。食事の準備をする音や香りが漂い、家庭的な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル席など利用者様のお好きな場所で談話したり、テレビを観たりゆったりと過ごせる様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の思い出の品や家族写真などを持ち込んでいただき、居室内でゆったりと居心地よく過ごしていただける様に工夫している。	居室には、利用者一人ひとりの使い慣れた家具や調度品、思い出の写真等を持ち込んでもらっている。利用者の心身状況の変化に応じて、家具の配置や数を変えるなど、安全で居心地の良い居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりが必要としている事柄を知り、その都度どのようなサポートがあれば安全に自立支援になるかを考え、快適な生活が送れる様に支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義について全職員が理解し、運営出来るよう事務所に理念を掲示し、理解を深め実践に活かしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の日課の散歩等で近隣の畑作業中の方や、散歩などされている方々と挨拶を交わすなどし、友好的な関係作りが出来るようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様の御家族や民生委員の方へ現状報告を定期的に行い、認知症についての理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催した時に施設で行っている現状報告を行い、課題について意見交換を行っている。アドバイスについて職員間で情報共有を行いサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことがある時は市の担当者に尋ねたり、お世話センターに相談するなどしアドバイスや解決方法を提案していただき、協力関係を気浮ける様に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会を行い、身体拘束について正しく理解を深め再確認を行うようにしている。現場において疑問に感じたことは話し合う場を持ち、解決に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社会的に虐待防止の意識が高くなり、報道やインターネット等により情報が得られやすくなり、毎月のミーティング等で話し合う機会を持ち、虐待防止の意識を再確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用できる制度や事業について家族様や関係者の意向に速やかに対応できるよう準備し、利用者様の能力に応じた活用ができるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に家族様や関係者の方に十分に時間を掛けて重要事項や利用契約書等について説明をし、理解・納得をしていただいた上で署名・押印をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来苑時玄関先の見えやすい場所にご意見や苦情について相談できるチラシ等を置き、気軽に相談できる雰囲気作りに努め、会議等で話し合った内容について書面で職員や外部者へ伝えるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行うミーティングや日々の申し送りの中で、管理者へ現場の運営上の要望等を職員から提案し、熟考する場を持っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に現場の状況を把握し、職員個々の持っている能力や経験等に応じた労働条件を考慮し、就労意欲向上につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内におけるテーマ別の研修にて勉強する機会を持ち、職員のキャリアアップに繋がる外部研修や資料を提供し、働きながら技術や知識を身につけられるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者と話し合う機会を持ち、情報交換やアドバイスをいただき、サービスや業務の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にケアマネや家族様からお聞きした情報をもとに、本人の希望や不安を取り除けるようなサービスを提案するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様との面談の中で要望や困っている内容について把握し、信頼関係を築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様や本人にとって今必要なサービスは何なのか、現状を把握し適切な支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬し、利用者様の得意な事や出来る事を見極めながら、一緒に生活する中で信頼関係を築ける様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙や面会時に施設での日々の状態をお知らせし、必要な事や困っている事について家族様と共に解決するように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の来苑に面会できる場を設けたり、入居前からのかかりつけ医への受診の支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格を把握し、気の合う利用者様同士が会話を気軽に楽しめるようにテーブル席を配置したり、職員が間に入り共に楽しく生活が出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も電話やお手紙にて気軽に相談できる関係性を持ち、経過に合わせたフォローが出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の言葉や表情から、その方の思いや意向について把握できるように努め、実現の不可避についてその方の視点に立ち、職員間で話し合い取り組めるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネや御家族様にこれまでの生活や人生観についてお聞きし、毎日の生活の中で慣れ親しんだ暮らし方が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中でその時その時の利用者様の能力や状態の把握に職員全員が努め、その方に合った一日の過ごし方が出来るように「努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様や御家族からの要望を伺い「アセスメント」や「モニタリング」にて職員間でカンファレンスを行い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の個別の介護記録を作成し、行ったケアや状態について記録をしている。また申し送りなどで職員間で情報を共有し、気づいた点など介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のニーズに合わせた支援を行い、病院受診や必要な買い物など臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容師さんに訪問していただき、利用者様と会話をしながら希望に沿った髪型を整えていただいたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の他、家族様や本人の希望されるかかりつけ医の受診を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の体調変化や気になる事を訪問看護師に相談し、助言を頂き適切な医療を受けていただけるように繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員や管理者が継続して見舞うことで鳴れない場所での不安やストレスを軽減できるように努めている。また医療機関の方と話す機会を設け情報交換を行いスムーズな治療やケアができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や看取りについて書面をもとに説明し、苑の対応力について十分な理解、了承を得ている。利用者様に合わせた支援が出来る様医療機関との連携体制を整備している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一人ひとりの状態を常に把握し、急変や事故に対して適切な対応ができるよう、主治医や看護師の方に応急手当など教えていただいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の災害対策マニュアルを作成し全職員が避難経路や対策について周知している。避難訓練を行い地域の消防団とも連絡がとれるように協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を人生の先輩として尊敬し、自尊心を重んじる丁寧な言葉かけを行い、一人ひとりのプライバシーを守るように全職員で行っている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の言動に注意し、それぞれに合った声掛けや傾聴を行うなかで思いや希望に気づき、出来る力を把握し利用者様の能力に応じた自己決定が出来るような声掛けに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活パターンを把握し、それぞれの個性を尊重し一人ひとりのペースを大切にして、その方らしく過ごせる様に希望に沿った支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今まで愛用されて来た衣類や本人の好みを大切に、身だしなみを整えている。また訪問美容師を利用していただいたり、化粧品の補充管理を行いおしゃれが継続できるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手な食材は違う物に変更して提供したり、視力の悪い方にはお皿を手にお渡ししたり、美味しくいただけるように、食後は食器拭き等の片付けを職員と一緒にしている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様個々の健康状態、その日の気候や体調に配慮し、摂取量の少ない方には補食を準備したり苦手な食材は調理法を変えるなどしている。定期的な水分補給には声掛けにて摂取を促している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内清潔の重要性を理解し、毎食後に声かけにてケア出来る方は見守りを行っている。義歯を使用している方は定期的に酵素液に漬け洗浄を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄機能や排泄パターンを把握しトイレでの排泄を重視し、自尊心に配慮した介助を行っている。パンツやパッドの形態や使い方、ポータブルトイレの使用と随時状態に合わせ検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を常に確認し、便秘傾向になっている方には様々な要因をチェックし、水分補給や繊維質の多い食品接種を促し散歩や体操などの運動に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様のその時の気分や体調を尊重し、安全に安心して入浴することができ、その方のペースで満足していただけるよう努めている。また菖蒲湯や柚子湯を取り入れ季節感を楽しんでもらえるよう取り組んでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣やその日の体調に合わせて休息していただくと共に、生活リズムを整え日中は出来る限り活動的に過ごしていただくことで夜間の気持ち良い睡眠に繋がるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の病気や薬についての知識を持ち、服用している薬のファイルを作成し、確認できるようにしている。処方が変わった時は症状の変化に気をつけ、ダブルチェックで確認をし服薬を身とっつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割や楽しみが得られる様に支援を行い、洗濯干しや洗濯たみが出来る方には職員や他の利用者様と会話を楽しみながらしていただいたり、新聞をやチラシを読むのが好きな方には自由に読める場所に設置している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナの影響もあり外出が難しいですが、四季折々の花見や鯉のぼり鑑賞などを企画し外出できる機会を設けている。自力歩行が難しい方は車椅子を使用していたき出かけるなどして支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族様や本人の希望に応じて、お小遣いを持っていただくようにしている。一人ひとりの能力に合わせた支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が家族様と電話にてお話ししたいときは個別に支援を行い、また携帯電話を持っておられる方には必要な時にお話しが出来るように充電に気を付けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じることでできる壁面飾りや、居心地の良い空間作りに努めている。台所からは料理のよい香りがし、自宅でゆったりと過ごしているような環境作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同生活の中で人の気配を感じながら、一人ひとりが気兼ねなく自分のペースで過ごせる様に配慮し、穏やかな気持ちで暮らせる様に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には今まで使い慣れていた物を置いて頂くなど、プライバシーを大切にしながら安心して居心地よく過ごせるような居室作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能に合わせて目印や貼り紙をするなどし、不安や混乱に繋がらないよう安心して施設内を移動できるように工夫している。		